理事長に就任して

紙パルプ技術協会 理事長 大西 光 司

Inaugural Address

Koji Ohnishi

President, J. TAPPI

去る5月16日の総会において、私は紙パルプ技術協会の理事長に選任されました。私個人にとっては大変名誉な事ではありますが、その反面責任の重大さを痛感し身の引き締まる思いが致します。何とぞ皆様の御協力と御指導、御鞭撻をお願い致します。理事長就任の挨拶で私は次の事柄に特に力点をおいて協会の活動を推進したいという抱負を述べました。すなわち

1. 若手会員にもっと魅力のある協会に育てて行く事。
2. 世界的視野に立ち、国際的な技術交流を積極的に推進する事。
3. 現在日本の紙パルプ産業が抱えている重要課題に焦点を絞り、地道な調査により、権威ある資料の集積を行ない業界全般に役立てる事の3項です。

まず第1項については今更事新しく申上げるまでもありません。協会会員の大部を占める若手研究・技術者が、魅力を感じないようなことではお話になりません。我が日本の紙パルプ産業の事実上の担い手であり、明日への新しい道を切り開く原動力である若い研究・技術者が大いに当協会を活用し、また自らその運営の活発化に参画出来るような形にもって行きたいと思えます。

アメリカ、カナダ、北欧等の協会活動は、その点非常に参考になります。現在協会の中に総合企画委員会というのがありますが、委員の構成がややフォーマルでマネジメント側によっておりますので、これと並行して、あるいはこの下部組織としてジュニアボード的な企画専門委員会のようなものを作り、各社の課長クラスの生きのいい人達をメンバーにして自由討議をして頂き、協会の企画、運営について色々フレッシュな提案をしてもらうのもとりあえずの

方策ではないかと考えております。

次に第2項の国際活動の活発化の事です。日本は世界第2の製紙国とは申しながらこの点は深く反省して見る必要があります。政治、経済、産業等すべてグローバルな視点で動いて行く時代の中で、我々だけが日本の島国に閉ちこもって「我が道を行く」わけにはいきません。私の乏しい経験から申上げても、アメリカ、カナダ、北欧の技術会議やシンポジウムに出席すると、彼等は互に全く国境を越えて自由に且つすこぶる有効な人的、技術的交流を行っているので実にうらやましくなります。我々日本人には言葉の障壁という大きなハンディーがありますが、おっくうがってはいつまでたってもこの障害は越えられません。去る6月中旬フィンランドで開かれた ESPRA のヨーロッパ大会に出席しましたが、フィンランドの Speaker の内半数以上はかなりひどい英語を使うのでびっくりしましたが、それでも彼等は少しもわるびれず堂々とやり、また結構それが通用しています。ああいう国際会議では各国人の使う「変な英語」が入り混って共通語としての「英語でない英語」が出来ていて、きれいな King's English

が使えなければ恥かしいなどということは絶対にありません。要は場数をふみ、耳と心臓の訓練の問題です。出来るだけ多くの各国人と接触して刺激を受け、世界中に多くの知人を作りたいものです。

次に第3項の問題については、例えば環境問題、省資源、省エネルギー問題、輸送問題、製品の規格化問題等、現時点の業界共通の重要テーマについて、基礎資料と実績調査を積上げ、お互の参考資料として役立てると同時に、経団連や政府当局への提言、正しい世論形成にも活用出来るようにたゆまぬ努力を続けて行くべきものと考えます。

以上私の所懐の一端を申し上げましたが、最後に私達の参考になる諸外国の Tappi 的活動の概要を紹介致します。

1. アメリカ Tappi (近着の Tappi Directory 1976 年参照)

創立 1915 年で既に 61 年の歴史をもち、現理事長 Harris Ware 氏は 34 代目です。理事 16 名、専任事務局は専務理事以下 19 名。組織は Tappi 誌等刊行物発行、財務、規格、表彰、人事等の Administrative and Advisory Committee の外、Technical Operations Committee として、

Coating and Graphic Arts Div.
Corrugated Container Div.
Engineering Div.
Finishing Div.
Management Science Div.
Paper and Board Manufacture Div.
Paper Synthetics Div.
Pulp Manufacture Div.
Research and Development Div.
Environmental Div.
Testing Div.

の 11 の Division があり、それぞれの Division の中にまた細かく Sub-Committee が分れていて、その全部に Chairman, Vice-Chairman, Secretary 及び member が指名されています。また、それとは別にアメリカ全土に 24 の地方組織があって、それぞれ役員が任命されていて地域活動を行っています。

会員数は国内 10,155 名、国外 3,730 名計 13,885

名で、国外会員の大口はカナダ 903、日本 428、イギリス 254、スウェーデン 244、フィンランド 175、イタリア 171、西独 156、メキシコ 117、インド 105、ブラジル 104 名となっており、興味ある数字を示しています。また、アメリカには IPC や Forest Products Laboratory その他の共同研究機関が Tappi 活動の大きな支えになっていることも日本と異なる所です。

2. カナダ

カナダ製紙連合会 (CPPA) の Technical Division として Tappi 的活動をやっています。内部組織はアメリカ Tappi に似ていて、Pulp, Paper and Board 等 Division が 6 部門、地方組織が 10。重要なシンポジウムはアメリカ Tappi と共催でやることが多い。(詳細は機関誌 Pulp & Paper Canada, March 1976 参照)。カナダでは有名な PPRIC という研究機関が非常に強力な支持力になっています。

3. スウェーデン

Tappi に当るものは The Swedish Association of Pulp and Paper Engineers で機関紙 Svensk p. p. を出しており、Pulp, paper, Research 等 7 部門の Division を有し研究発表会を行なう外、技術者教育を強力に実施しています。なお、技術協会活動の強力な background として Forest Product Research Laboratory, Water and Air Pollution Research Institute, Packaging Research Institute, Royal Institute of Technology 等があります。

4. フィンランド

Tappi に当るものは The Finish Paper Engineers' association で、この suporting background として Finish pulp and Paper Research Institute があります。現在この所長が協会の理事長を兼ねているということです。当研究所は私も去る 6 月ヘルシンキを訪れた時さっと見せてもらいましたが、実にうらやましいくらい立派で、研究活動もなかなか活発でした。

5. イギリス

Canada の組織に非常によく似ています。

以 上